



うん、やはりいいもんだ

学 園 長 小 島 澄 人

幼い時のたくさんの思い出が今の自分を支えている、最近特にそう思う。幼児教育においては、「行事は思い出教育」、だから楽しさいっぱいにしてあげたい。私の一番の嬉しかった思い出は、運動会のお昼に家族みなでご馳走を食べたことです。学校の教師をしていた父も、同じ学校の先生でしたが、昼は一緒に食べたことが本当に嬉しかった。なのに、自分の娘も息子も、その孫たちみんな入園・卒園・入学・卒業・発表会・参観・面談など、一度も行ってあげなかった。仕事・仕事。勿論、運動会で一緒にご馳走を囲むことはなかった。今年度は、たくさん招待された学校の運動会を教職員に頼んで見に行ってもらい、孫の走ったりする姿等を開会式から閉会式まで見ることに……。ご馳走を囲んだのでした。「うん、やはりいいもんだ」。「これがしあわせなのか」。本当に嬉しかった。娘も息子も何とか一人前になったかなとは思っても、父親としては本当に「0点」だったな。申し訳ない。今年になって、あちこちの小学校、中学校の運動会では「時短」と称して、半日で終わったり、お昼は別々で子どもたちは教室で食べるか……。私の小学校時代の最高の思い出の一つ、「運動会のお昼のご馳走を囲む幸せ」、その体験がなくなっただけではいかがか、そう思って今回は一緒に食べることにしたのです。「うん、やはりいいもんだ」。娘、孫たちの顔は輝いていました。家族で食卓を囲む、良いですね。

一年中、柿の実幼稚園の裏山や野原、園庭等を開放していますが、本当に大勢の家族が遊びにやって来ます。玄関横に掛けてある「子どもが育つ魔法の言葉」に、見入っている姿を見かけます。ご紹介します。何度読んでもうなづけます。

「けなされて育つと、子どもは人をけなすようになる。とげとげした家庭で育つと、子どもは乱暴になる。不安な気持ちで育てると、子どもは不安になる。かわいそうな子だ、といって育てると、子どもはみじめな気持ちになる。子どもを馬鹿にすると、引っ込みじあんな子になる。親が他人を羨んでばかりいると、子どもは人を羨むようになる。叱りつけてばかりいると、子どもは自分は悪い子なんだと思ってしまう。励ましてあげれば、子どもは自信を持つようになる。広い心で接すれば、切れる子にはならない。褒めてあげれば、子どもは明るい子に育つ。愛してあげれば、子どもは人を愛することを学ぶ。認めてあげれば、子どもは自分が好きになる。見つめてあげれば、子どもは頑張り屋になる。分かち合うことを教えれば、子どもは思いやりを学ぶ。親が正直であれば、子どもは正直であることの大切さを知る。子どもに公平であれば、子どもは正義感のある子に育つ。やさしく思いやりをもって育てれば、子どもはやさしい子に育つ。守ってあげれば、子どもは強い子に育つ。和気あいあいとした家庭で育てば、子どもは、この世の中は良いところだと思えるようになる。

ドロシー・ロー・ノルト